～戦後80年平和を考える～
令和7年度
第1回 学校図書館支援研修会

令和７年 ６月13日（金）14：30～16：45　金城満

本日の流れ

1. アートプロジェクト1（意見交換） -40分
2. アートプロジェクト2 （意見交換）-40分
3. 自身の表現活動からの視点　-10分
4 「世代を超えたメッセージ」について　-10分
5. まとめと振り返り

※質問あり、最後にこのプレゼン資料（pdf）のリンクをお知らせします。

平和教育のポイント5点を整理

①各教科，道徳，外国語活動（小学校），総合的な学習の時間及び特別活動等，全教育活動を通してねらいの達成を図る。

②各教科等の目標や内容に従い，児童生徒の興味・関心や発達段階に配慮して年間指導計画を立案し，計画的に実施する。

③指導に当たっては，住民を巻き込んだ激し地上戦の場となった県であり，かつ世界平和を発信する拠点として期待されていることに配慮する。

平和教育のポイント5点を整理

④**教育基本法第 14 条の規定**に基づき，適切に実施し，社会運動や政治運動との関係を明確に区別し，教育の中立性を確保する。

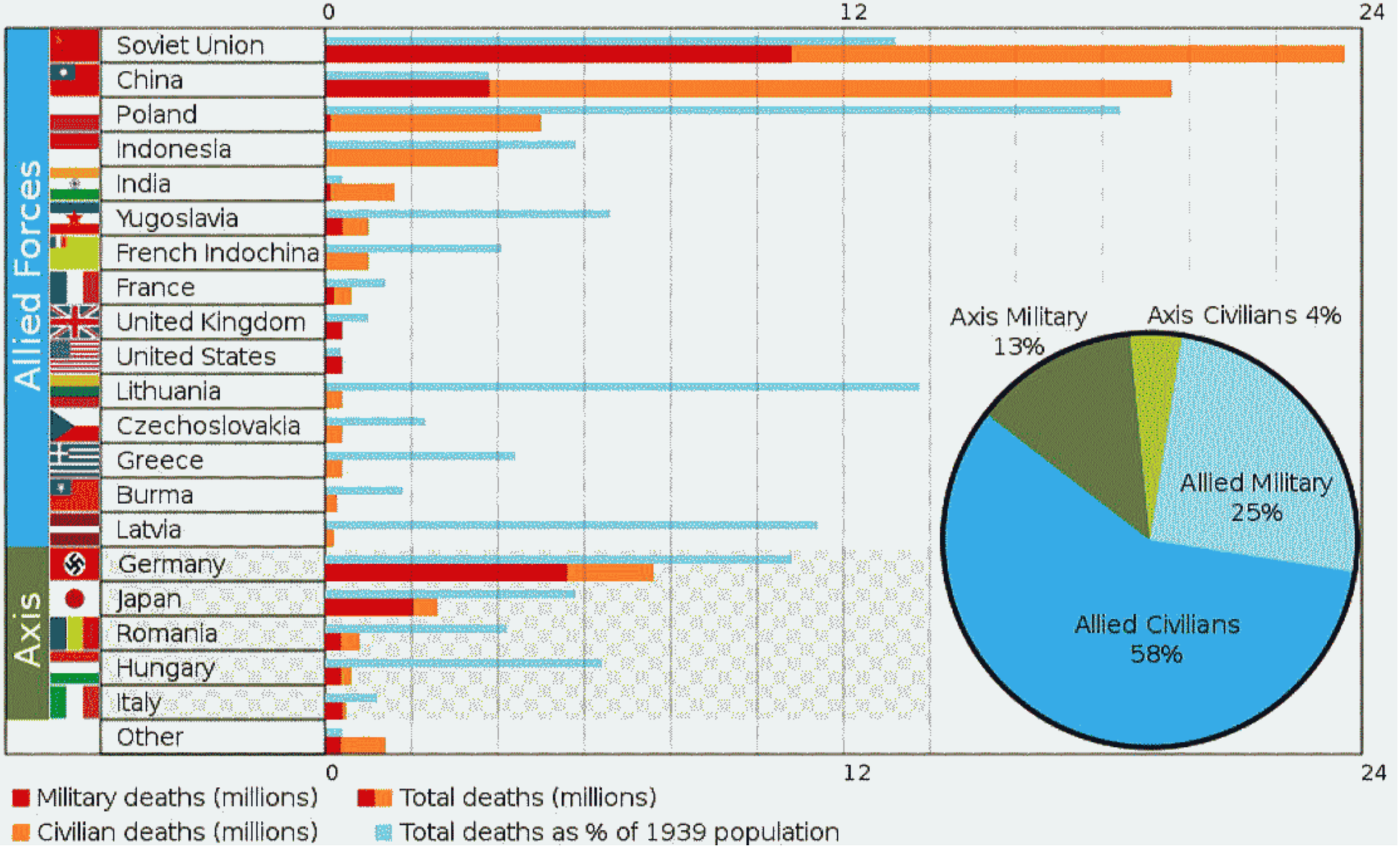
⑤国際教育，人権教育，環境教育等との関連を図ったり，道徳教育の充実を図っ たりして，**平和を尊重する心や態度**を育成する。

次の資料から何が読み取れますか？→→

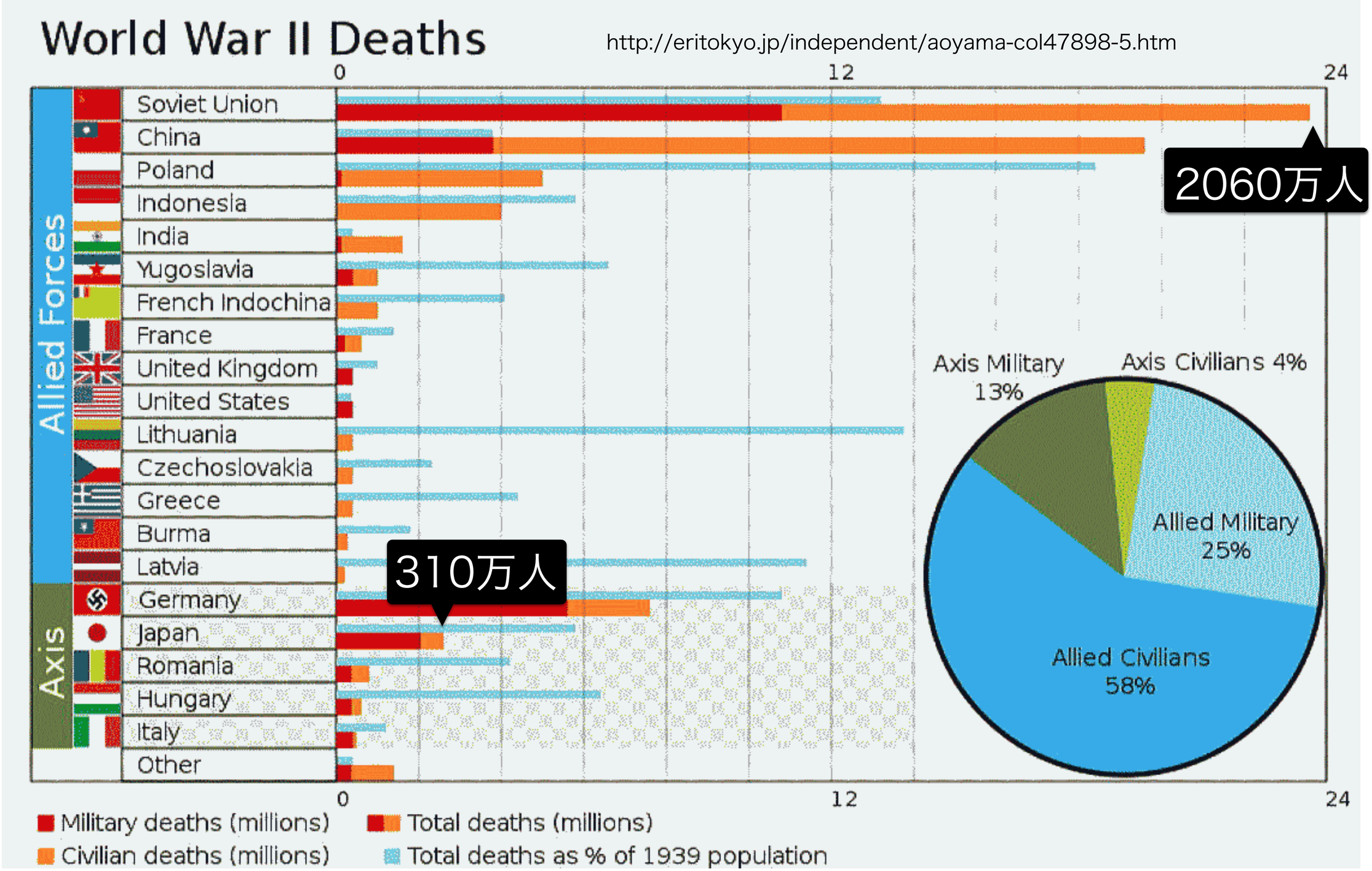
資料

World War II Deaths

http://eritokyo.jp/independent/aoyama-col47898-5.htm



資料


World War II Deaths
http://eritokyo.jp/independent/aoyama-col47898-5.htm
0
12
24
Allied Forces
Axis
Soviet Union
China
Poland
Indonesia
India
Yugoslavia
French Indochina
France
United Kingdom
United States
Lithuania
Czechoslovakia
Greece
Burma
Latvia
Germany
Japan
Romania
Hungary
Italy
Other
2060万人
310万人
Axis Military 13%
Axis Civilians 4%
Allied Military 25%
Allied Civilians 58%
Military deaths (millions)
Civilian deaths (millions)
Total deaths (millions)
Total deaths as % of 1939 population

質問です

沖縄戦の戦没者のなかで，犠牲者が一番多かったのはどの人たちですか。（戦前の沖縄県の人口59万人）

⑴沖縄住民

⑵正規の日本兵

⑶米軍

⑷わからない

答え（諸説ある）

沖縄戦の戦没者のなかで，犠牲者が一番多かったのはどの人たちですか。（戦前の沖縄県の人口59万人）

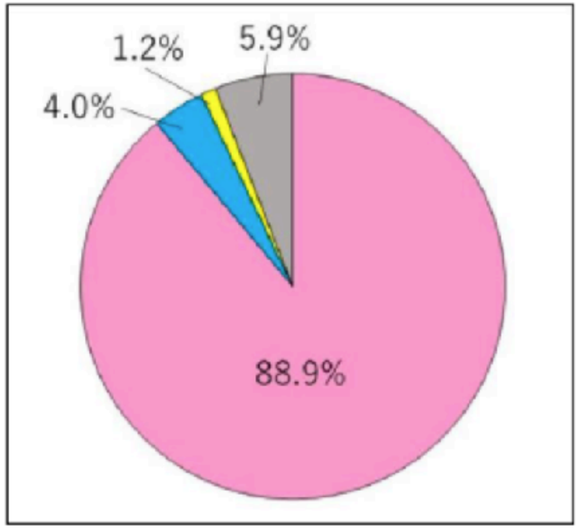
⑴沖縄住民（88.9%)

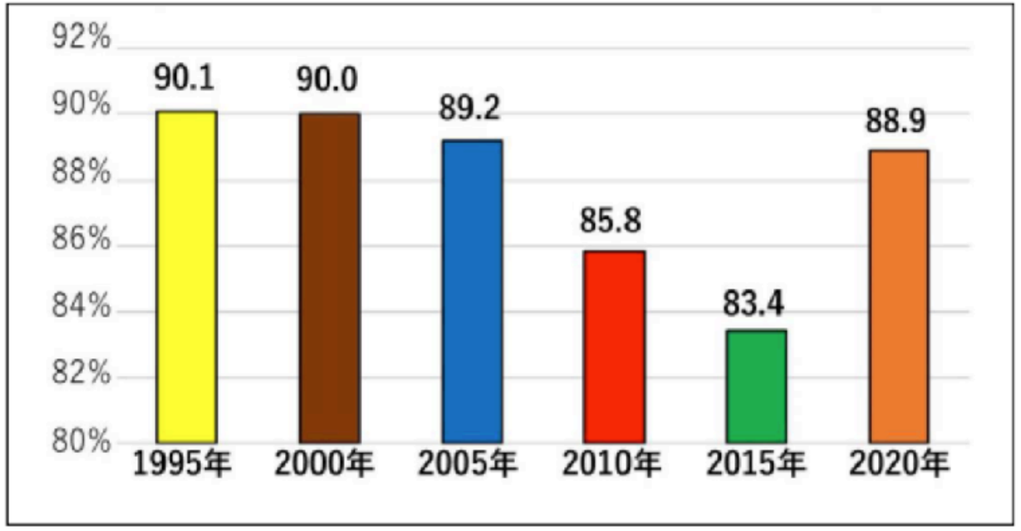
⑵正規の日本兵（4.0%)

⑶米軍（1.2%)

⑷わからない（5.9%)

円グラフ：犠牲者の比率





棒グラフ比較（高校生）：1995年90.1％　2000年90％　2005年89.2％　2010年85.8％　2015年83.4％

沖縄歴史教育研究会「2020年平和教育に関するアンケートの分析」より

沖縄戦の特徴

①全島要塞化

・住民総動員ー飛行場建設や陣地壕づくり　・「一木一草といえどもこれを戦力化すべし」

②戦略持久作戦

・本土上陸を遅らせる時間稼ぎの作戦、「捨て石」

③軍民混在の戦場

・日本兵による壕追い出し、食糧強奪　・砲弾は軍人と住民を区別しない。

④住民虐殺

・「軍人軍属を問わず標準語以外の使用を禁ず。沖縄語を以て談話しある者は間諜とみなし処分す」
・スパイ嫌疑により虐殺（赤松事件、今帰仁事件、本部校長事件など）

⑤集団自決

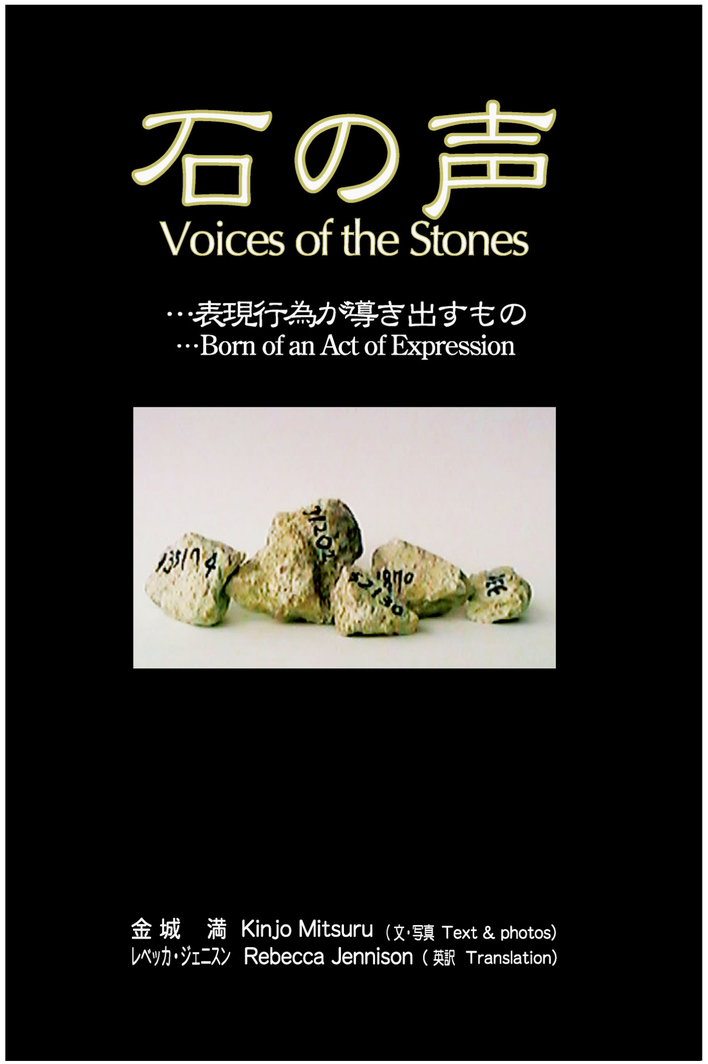
・壕追い出しと避難拒否、投降阻止　・日本軍の駐屯-座間味、慶良間、読谷、沖縄市、南部など

⑥米軍支配の長期化

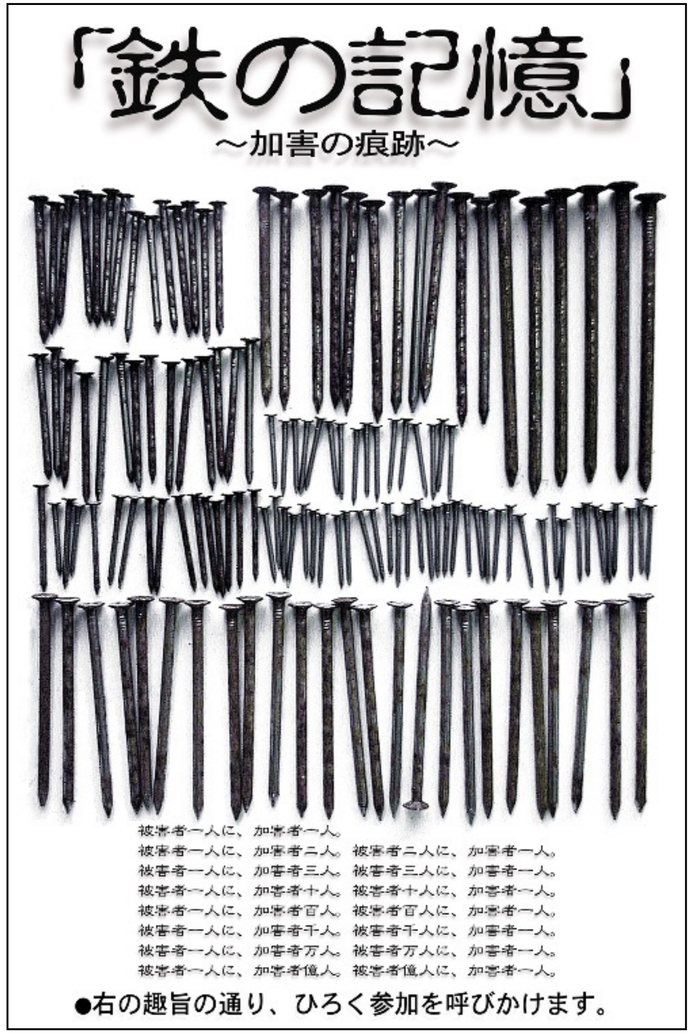
2つのアートプロジェクト※ による平和教育

※作品そのものより制作のプロセスを重視したり、美術館やギャラリーから外に出て社会的な文脈でアートを捉えたり、アートを媒介に地域を活性化させようとする取り組みなどを指す。

2つの取組みのアートプロジェクトによる平和教育



（1996年）



（1999~2000年）

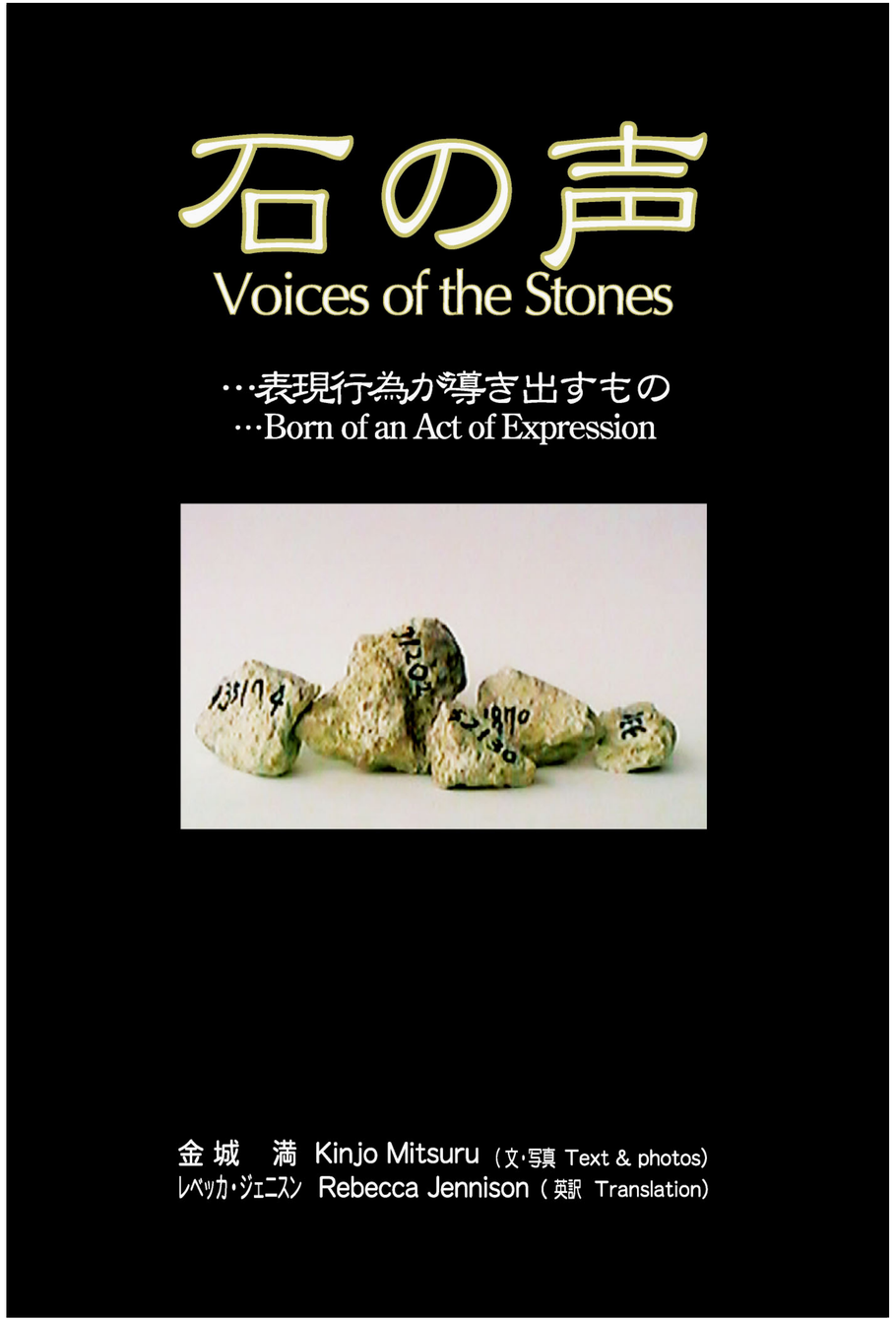
キーワード

石と鉄

「石の声」・・・表現行為が導くもの（1996）

黙々と、ただ石に番号をうつ
その行為の数、20余万
祈りにも似た表現行為。

これが、「石の声」の呼びかけ文である。
1996年6月15、16日、普天間基地に隣接した
佐喜眞美術館前広場に於て236.095個の石に連番
を書き入れ、積み上げていくという行為
この数字は、96年時点で把握されていた
沖縄戦戦没者数である



復帰後の事件事故（1959年～2016年にかけての沖縄）

沖縄県では、米軍基地に起因する事件・事故が繰り返される。
航空機関連の事故は、本土復帰1972年～2016年末までに709件発生。

- 1959年、現うるま市にある宮森小学校に 米軍戦闘機が墜落し、11人の児　童を含む17人が死亡、210人の重軽傷者を出した。
- 1995年、小学生の少女が米兵３人に暴行される事件が発生し、敗戦から半世紀、基地被害と米兵の犯罪に苦しんできた沖縄県民の怒りが爆発した。
- 2004年８月、米海兵隊の大型ヘリコプターが沖縄国際大学の本館に接触、墜落、炎上した。
- 2016年12月、オスプレイが、名護市の集落の近くに墜落した。
- 2016年にも、女性が遺体で発見された事件で、米軍属の男が死体遺棄、強姦致死及び殺人の容疑で逮捕・起訴され。

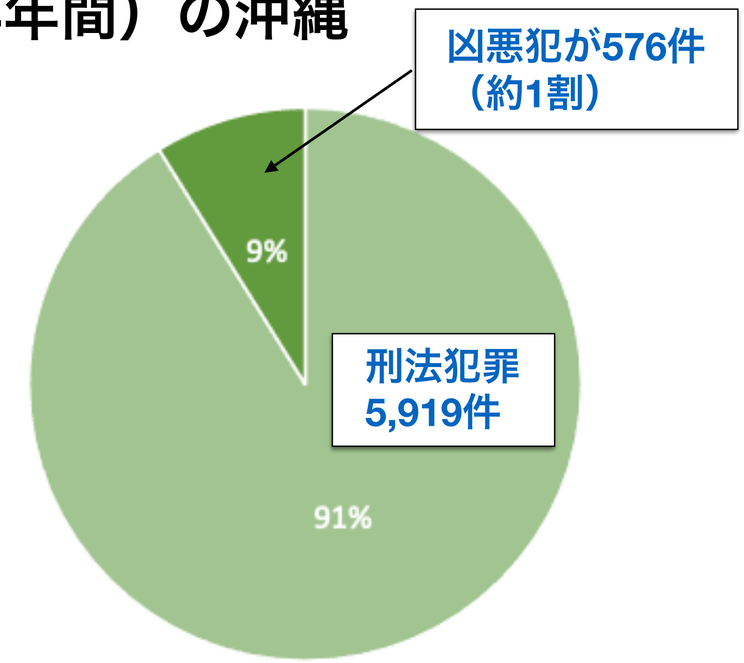
復帰後の事件事故 復帰1972年～2016年（44年間）の沖縄

　米軍人・軍属等による刑法犯罪は、
復帰1972年から2016年末までに
5,919件発生し、うち殺人・強盗・強姦
などの凶悪犯が576件（約1割）。

　国土面積の約0.6％の沖縄県に、全国の
米軍専用施設面積の約70.6％の米軍基地が
あるがゆえに、長年にわたり事件・事故が
繰り返されている。沖縄県は、日米両政府
に対し、基地の整理縮小や日米地位協定の
見直しや過重な基地負担の軽減を求めている。

復帰後の事件事故

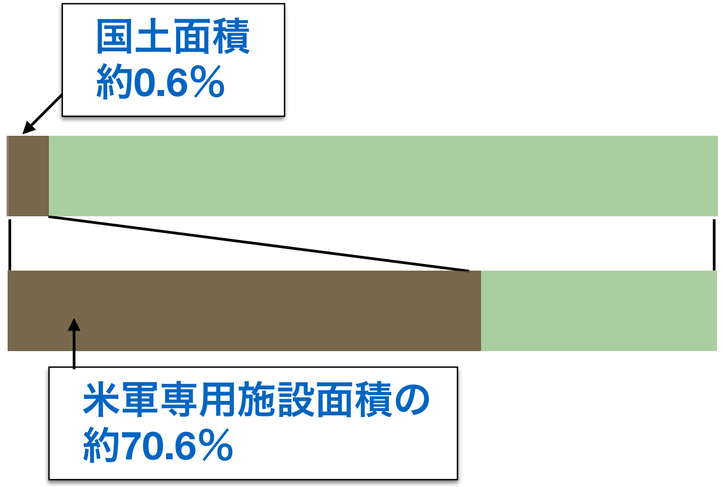
復帰1972年～2016年（44年間）の沖縄



米軍人・軍属等による刑法犯罪は、
復帰1972年から2016年末までに
5,919件発生し、うち殺人・強盗・強姦
などの凶悪犯が576件（約1割）。

**5,919件を/44年で割ると、
1年あたり136件、2,7日に1件発生している。**

国土面積の約0.6％の沖縄県に、全国の
米軍専用施設面積の約70.6％の米軍基地が
あるがゆえに、長年にわたり事件・事故が
繰り返されている。沖縄県は、日米両政府
に対し、基地の整理縮小や日米地位協定の
見直しや過重な基地負担の軽減を求めている。



「石と鉄」の背景（1996年～2000年にかけての沖縄）

①1995年9月、沖米兵による少女暴行事件後、戦後50年間、
基地の整理・縮小を求めるうねりが高まった。

②沖縄戦体験者の高齢化やこれまでの平和教育から転換期。

③ 平和教育のマンネリ化と、教師の若年化等、継承の難しさ。

④「総合的な学習の時間」の取りみ方法の検討時期。

他府県とは異なる、**沖縄の状況を高校生に自ら考えさせる**ねらいを持った企画が必要。

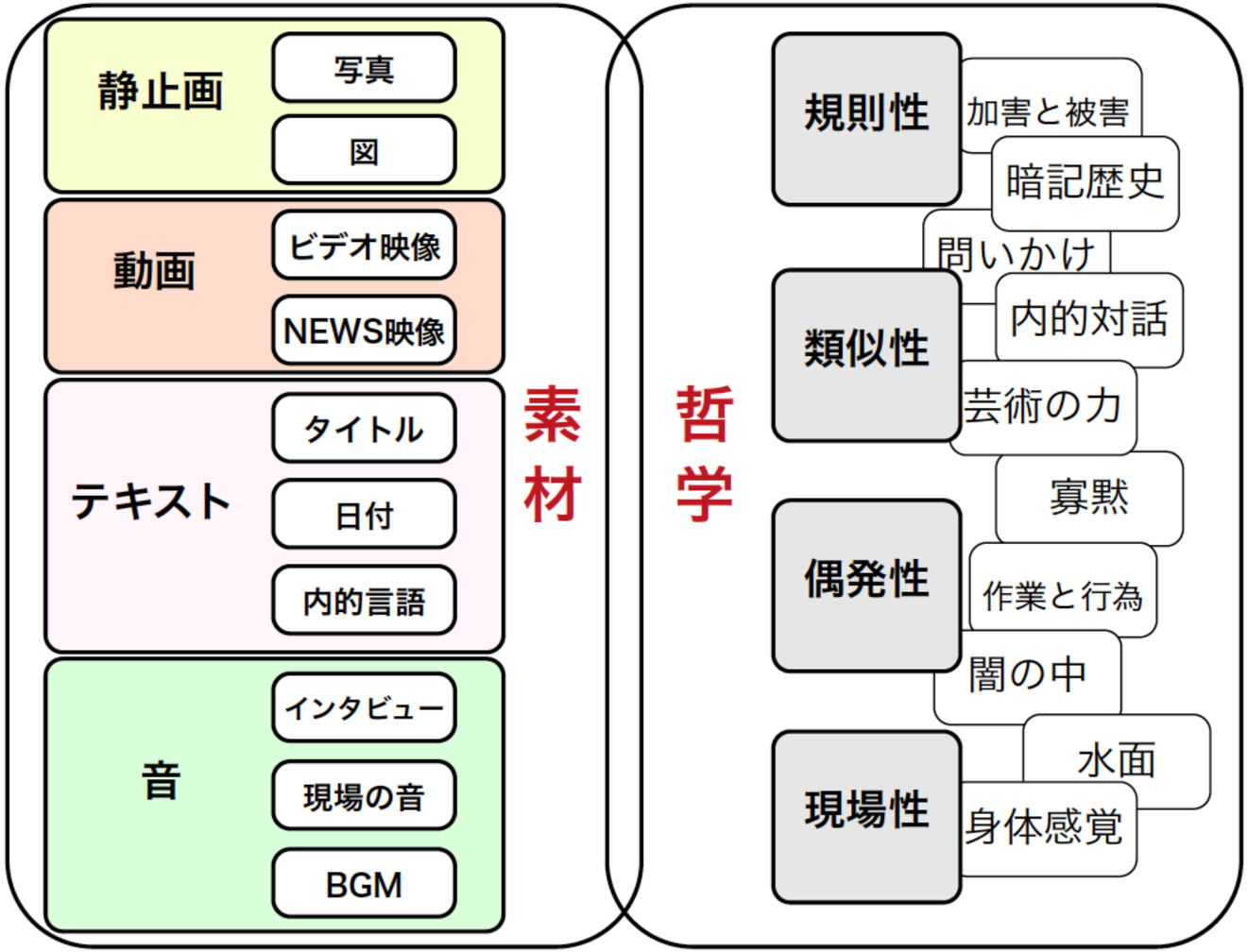
美術や歴史を教科教育だけでなく**自己や社会について考えさせる**ための生涯教育と位置づけた。

「命」「平和」を**表現行為を通して見つめる**ことが、結果的に平和教育と結びついた。

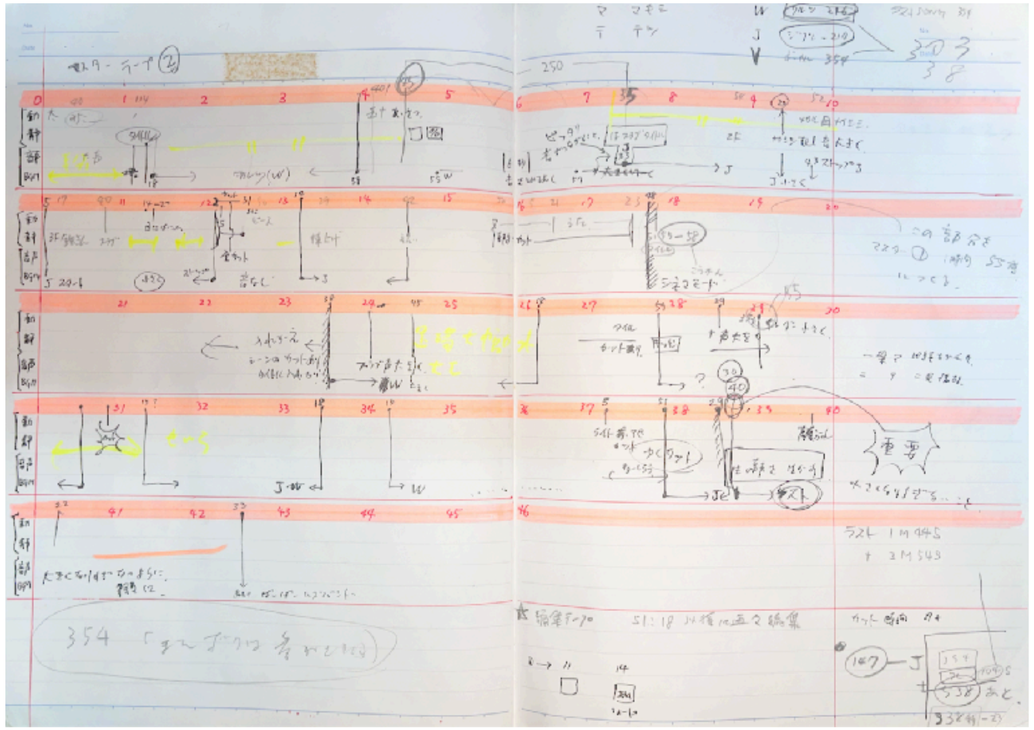
校内で不参加の生徒も含め全体で振返りを行った。そのため、映像化の必要が生じ、**資料を編集したのがこの映像**である。

編集（メッセージをどう伝えるかは重要）現場で体験していない人にも

編集（メッセージをどう伝えるかは重要）現場で体験していない人にも



素材をどう扱うか方向性の整理



タイムラインによる編集計画

体育館での上映方法（開始前にあることをお願いしました。）

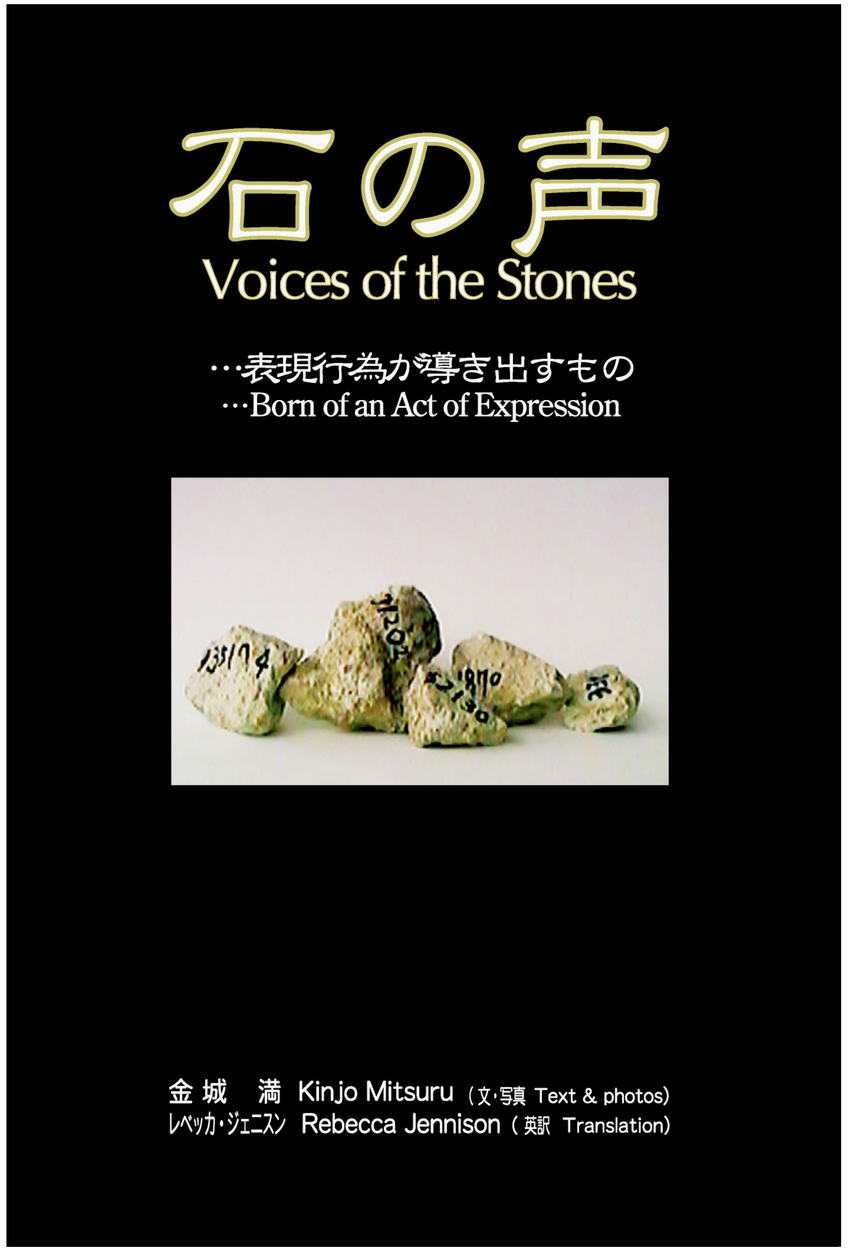
視聴後、もし何かを感じたのであれば
黙って教室まで帰ってください。

黙々と、ただ石に番号をうつ
その行為の数、20余万

黙々と、ただ石に番号をうつ
その行為の数、20余万

意見交換

- ここで、気軽に疑問や
  気づいた点など出し合い
  意見交換しましょう。

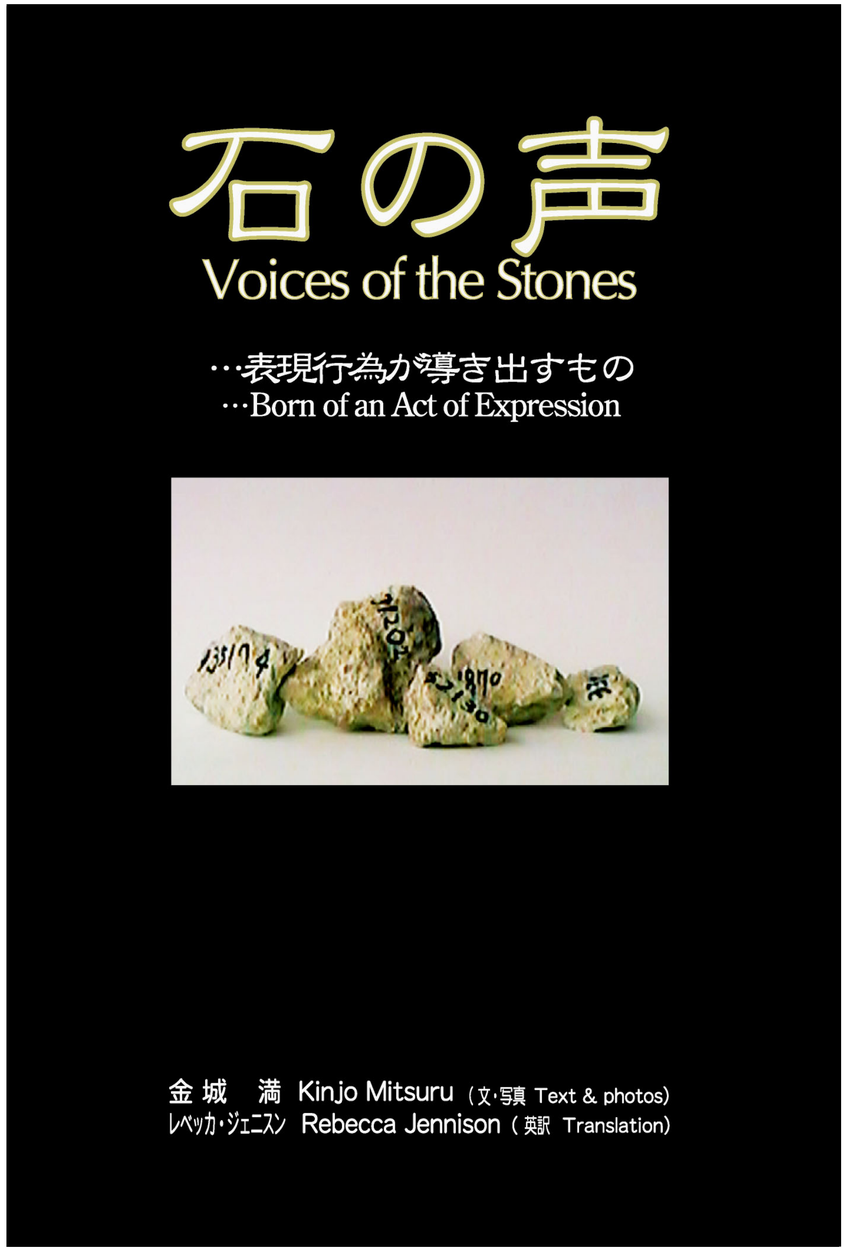


意見交換

- ここで、気軽に疑問や気づいた点など出し合い意見交換しましょう。

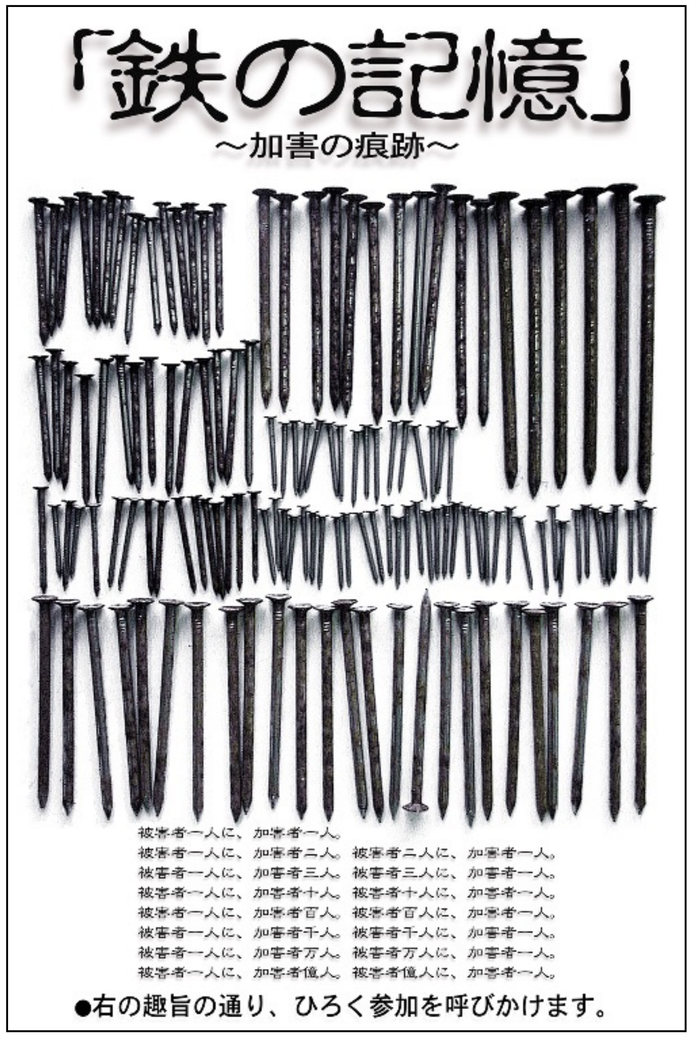
内容からの例：

- 平和教育のポイント
- 資料（第二次世界大戦の死者数）
- 質問（沖縄戦の戦没者のなかでの犠牲者）
- 沖縄戦の特徴
- アートプロジェクトとその背景
- キーワード
- 言葉と声、視覚と聴覚、そして五感
- 編集方法と上映方法



2つの取組みのアートプロジェクトによる平和教育

（1996年）



（1999~2000年）

キーワード

石と**鉄**

被害　加害

「鉄の記憶」～加害の痕跡～（1999~2000年）

（1）概要

1996 年の「石の声」の趣旨を発展させて行ったアートプロジェクトである。当時、普及が進んだ**インターネットを利用**して、その趣旨や状況をその都度発信、県内外へも参加を呼びかけて、**全国的な参加型のプロジェクト**を試みた。

進捗状況を発信するスタイルから**公開進行型**とも呼ぶ事が出来る。この様に、参加型または公開進行型の波及効果を取り込むことで、新たな**平和教育としての可能性**も拡がると考えた。

質問です

沖縄県の不発弾処理重量は全国の約6割を占めており、現在（R1年度）約2,000トンの不発弾が埋没していると推計されている。
不発弾から県民の生命・財産を守るため、 その早期処理を図ることが重要課題となっている。
県はある事故をきっかけに「戦後処理問題の解決」として県の公共事業で磁気探査が導入され、平成24年度からは、民間へも拡大し、事業の効率的な推進を図っている。

「ある事故」とは何か？

答え

1974年3月2日。那覇市小禄の聖マタイ幼稚園そばの下水道工事現場で重機が基礎工事用の鉄くいを打つ中、日本軍が使用した機雷に触れて爆発した。爆発時はひな祭り会の最中だった。

3歳の女児や作業員ら4人が死亡、34人が重軽傷を負った。事故をきっかけに県の公共事業で磁気探査が導入されるなど、県民に衝撃を与えた。

はるおしみつき

テーマ

不発弾の磁気探査

農家・地主・家を建てる予定の方へ
不発弾探査費用を
原則100％補助する事業があります

沖通研
手話通訳 飯國 孝子

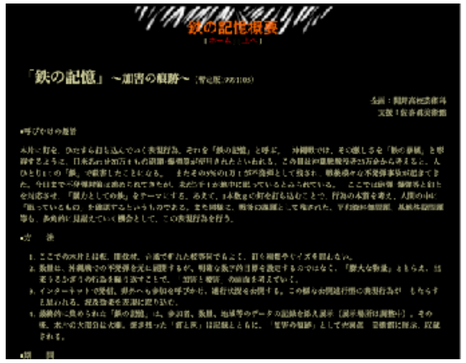
沖縄戦による被害

- 地上戦だけではなく、疎開学童が数多く亡くなった対馬丸事件等
- 多くの若者が戦争にかり出され亡くなった学徒隊
- 教育者の不足による学力低下
- 戦後、徐々に明らかになった先島諸島の戦争マラリア問題
- 基地依存による歪な産業構造による貧困・・等々

しかし「鉄の記憶」は被害ではなく加害がテーマ

方法

ホームページ・
ポスター・チラシ
配布で呼びかけ



「鉄の記憶」
～加害の痕跡～

被害者一人に、加害者一人。
被害者一人に、加害者二人。　被害者二人に、加害者一人。
被害者一人に、加害者三人。　被害者三人に、加害者一人。
被害者一人に、加害者十人。　被害者十人に、加害者一人。
被害者一人に、加害者百人。　被害者百人に、加害者一人。
被害者一人に、加害者千人。　被害者千人に、加害者一人。
被害者一人に、加害者万人。　被害者万人に、加害者一人。
被害者一人に、加害者億人。　被害者億人に、加害者一人。

●右の趣旨の通り、ひろく参加を呼びかけます。

「鉄の記憶」～加害の痕跡～

企画：開邦高校芸術科
支援：佐喜眞美術館

●呼びかけの趣旨

木片に釘を、ひたすら打ち込んでいく表現行為。それを「鉄の記憶」と呼ぶ。

沖縄戦では、その激しさを「鉄の暴風」と形容するように、日米あわせ20万ｔもの砲弾･爆弾等が使用されたといわれる。この量は沖縄戦戦没者23万余から考えると、人ひとり1ｔの「鉄」で殺害したことになる。

またその5%の1万ｔが不発弾として残され、戦後様々な不発弾事故が起きてきた。今日まで不発弾対策は進められてきたが、未だ3千ｔが地中に眠っているとみられている。

ここでは砲弾･爆弾等と釘とを対応させ、「暴力としての鉄」をテーマにする。あえて、1本数ｇの釘を打ち込むことで、行為の本質を考え、人間の中に「眠っているもの」を確認するというものである。

また同様に、戦後の課題として残された、平和資料館問題、基地移設問題等も、多角的に見据えていく機会として、この表現行為を行う。

●方　　法

1. ここでの木片とは板、間伐材、台風で折れた枝等何でもよく、釘も種類やサイズを問わない。
2. 数量は、沖縄戦での不発弾を元に展開するが、明確な数字的目標を設定するのではなく、「膨大な物量」ととらえ、出来うるかぎりの行為を繰り返すことで、「加害と被害」の両面を考えていく。
3. インターネットで発信、県外へも参加を呼びかけ、進行状況を公開する。この様な公開進行型の表現行為がもたらすと思われる、波及効果を表現に取り込む。
4. 最終的に集められた「鉄の記憶」は、参加者、数量、地域等のデータの記録を添え展示（展示場所は調整中）。その後、木片の大部分は火葬。焼き残った「釘と灰」は記録とともに、「加害の痕跡」として佐喜眞美術館に展示、収蔵される。

●期　　間

今の段階（1999年10月末）では2000年5月初旬までを釘うち期間とし、その後の予定は、開邦高校ホームページ　http://w1.nirai.ne.jp/kaiho/　にてその都度連絡呼びかけを行い、進行状況を公開していく。

●参加方法

1. 上記の期間、いつでもどこでも個人でも団体でも可能で、趣旨をふまえ、ひたすら釘を打ち込む。
2. 最終的に「鉄の記憶」は、次の事項を書き込んで直接持ち込むか、郵送。
   ①住所氏名（書ける範囲でかまいません。例：大阪府、比嘉）団体は団体名を直接木片に書込む。
   ②釘の本数を、直接木片に書込む。
   ③取り組みの写真等を添えてもよい。

●経　　費

1. この活動への支援も含め各自各団体は、各材料費及び送料の負担をお願いする。（着払い不可）
2. 展示収蔵に関するものは、佐喜眞美術館が負担。
3. その他諸経費は、開邦高校芸術科が負担。（美術コースで制作したＴシャツ販売の売り上げ）

●連絡先（持ち込み、郵送先は開邦高校芸術科）

〒901-1105沖縄県南風原町字新川646番地　開邦高校芸術科　tel098-889-1715　fax098-889-1709
〒901-2204沖縄県宜野湾市上原358　佐喜眞美術館　tel098-893-5737　fax098-893-6948

尚、企画そのものに関する問い合わせは開邦高校芸術科金城満か、開邦高校ホームページ内「鉄の記憶」eメールまで。

●呼びかけと趣旨

“木片に釘を、ひたすら打ち込んでいく表現行為。
それを「鉄の記憶」と呼ぶ。
　沖縄戦では、その激しさを「鉄の暴風」と形容するように、日米あわせ200,000トンの砲弾・爆弾等が使用されたといわれる。この量は沖縄戦戦没者23万余から考えると、人ひとりを1トンの「鉄」で殺害したことになる。

またその5％の10,000トンが不発弾として残され、戦後様々な不発弾事故が起きてきた。今日まで不発弾対策は進められてきたが、未だ3,000トン（1999年）が地中に眠っているとみられている。ここでは砲弾・爆弾等と釘とを対応させ、
「暴力としての鉄」をテーマにする。

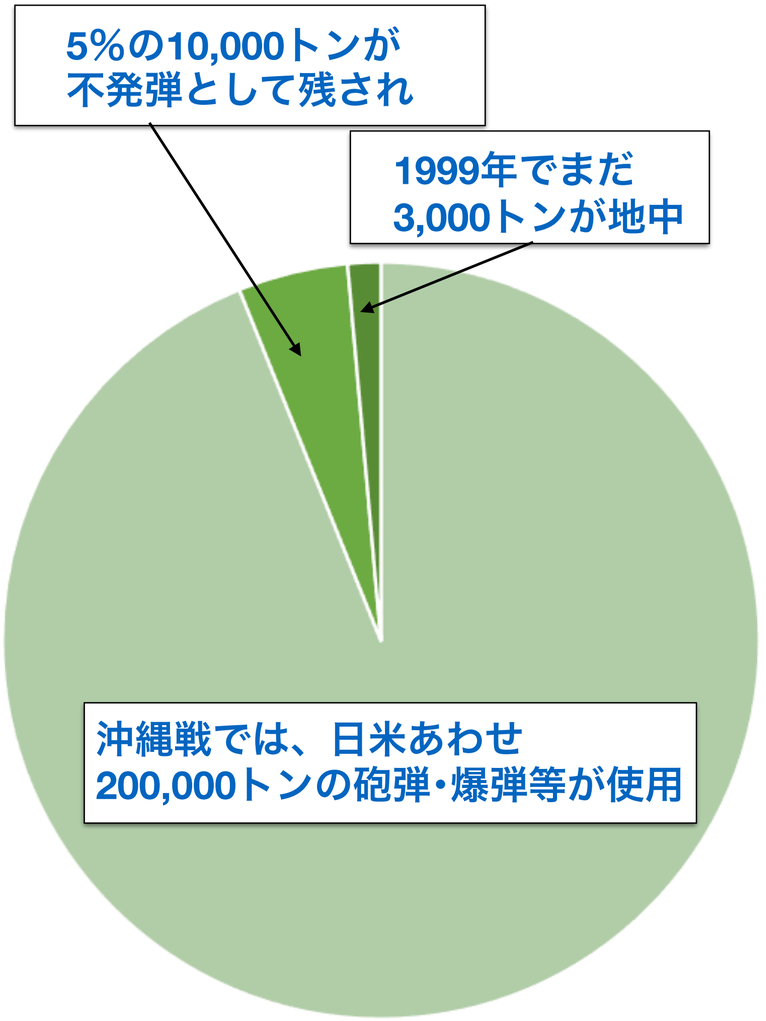
あえて、1本数gの釘を打ち込むことで、行為の本質を考え、人間の中に「眠っているもの」を確認するというものである。また同様に、戦後の課題として残された平和資料館問題、基地移設問題等も、多角的に見据えていく機会として、この表現行為を行う。”

●呼びかけと趣旨

“木片に釘を、ひたすら打ち込んでいく表現行為。
それを「鉄の記憶」と呼ぶ。
　沖縄戦では、その激しさを「鉄の暴風」と形容するように、日米あわせ**200,000トンの砲弾・爆弾等が使用**されたといわれる。この量は沖縄戦戦没者23万余から考えると、人ひとりを**1トンの「鉄」で殺害したことになる**。

またその**5%の10,000トンが不発弾**として残され、戦後様々な不発弾事故が起きてきた。今日まで不発弾対策は進められてきたが、**未だ3,000トン**（1999年）が地中に眠っているとみられている。ここでは**砲弾・爆弾等と釘**とを対応させ、
「暴力としての鉄」をテーマにする。

あえて、**1本数gの釘を打ち込むことで、行為の本質を考え、人間の中に「眠っているもの」を確認する**というものである。また同様に、戦後の課題として残された平和資料館問題、基地移設問題等も、多角的に見据えていく機会として、この表現行為を行う。”



開始直後

釘を運搬中その重さでパンクしたバイク

釘を打ち始める生徒

●参加方法

①木片とは間伐材、台風で折れた枝等何でもよく、釘も種類やサイズを問わない。

②数量は、明確な数字的目標を設定するのではなく、「膨大な物量」ととらえ、出来うる限り繰り返すことで、「加害と被害」の両面を考えていく。

③「膨大な物量」と捉えた釘をハンマーで打ち込む。衝撃が手にズシン、ガツンと直接伝わる行為を繰り返す。その時間と感触から「加害と被害」の本質を考える。

④最終的に「鉄の記憶」は、次の事項を書き込んで直接持ち込むか、郵送。

⑤鉄の記憶」は、その後、木片の大部分は火葬。焼き残った「釘と灰」は記録とともに、「加害の痕跡」として佐喜眞美術館に展示、収蔵された。

●期間

1999年10月～2000年5月まで
開邦高校ホームページにてその
都度連絡呼びかけを行い、進行
状況を公開していく。

●インターネットで発信して経過報告

障害者・友だちの会「愛実」　職員

大野義郎
以上

●お願い
送って下さるメール、手紙、写真等差し障りのあるものに関してはその旨連絡下さい。公開を控えさせていただきます。

こんにちは
本日6月9日、本曽卓校で第1回目の釘打ちを行いました。
修学旅行の係の生徒を中心に始めました。はじめは、何をどうやってよいのかわからずに戸惑っていたようですが、釘を打っているうちに、口数が減ってゆき淡々と釘を打つ音だけが教室に響いていました。本校でも修学旅行に関するホームページを公開する予定です。１２日の月曜日に生徒が集まってホームページづくりをすることになりました。

ファイルサイズが大きくなって申し訳ありません。写真を添付します。貴ホームページの片隅にでもわれわれの取り組みを載っていただければと思います。

また来週、状況をご連絡します。
---------- 松原
雄一郎木曽高校

その他全国から個人、団体沢山の参加がありました。

月「慈愛の日」あたりを終了予定

ると次のとおりです。

ているという状況では　ありませ
釘打てないということです。あくま
ある程度を過ぎたところで手が止ま

の成前後の年齢が起こす事件です。
は、「人を殺す経験をしてみたか

ことで被害の内認識と、誰もが持ち
こでは経験そのものが目的だった
見ますが、簡単に結論づけたりは出
と考えることも出来ないでしょう

要に掘り下げたテーマで展開できな
行っている、沖縄戦の写真パネル展
との合同企画です。

県教育センター県教育センターより：算定された相思樹をもらうよ...
佐喜眞美術館での参加呼びかけ展示.jpg
中庭1.jpg
中庭2..jpg
釘を待つ木1.jpg
釘を待つ木2.jpg

●期間延長と今後の予定について

取り組みになっています。
放なら加害行為としての釘
行為の趣旨に反することに
もう少し時間をかける必要
うど1年後の2000年10月末
、20世紀の暴力への「火
、佐喜眞美術館へ灰と釘

中には6月末の文化祭で取
ように取り組みの写真等も

手紙、写真、釘木片届きま

簡略　　初めまして，名古屋市にあります，障害者・友だちの「愛実（あみ）」の職員の大野と申します。曽呂で企画されました，「鉄の記憶」に参加させていただく，私どもの作品をお送りさせていただきました。
私どもの会には、身体的にもまた知的にも重い障害を持った方々（メンバーと呼んでいます）が高校を卒業した後、デイサービスに通っています。ここでは、彼らの持つ能力を最大限に発揮できるよう援助するために、絵を描いたり、音楽を聴いたり、楽器を演奏したりといった活動をしております。
今回は、メンバーが、金槌や石を使って釘を打ち込んだ木片を４つ同封いたしました。あわせてごらんいただけると幸いです。メンバーも、私たち職員もまず貴校の「呼びかけの趣旨」を一緒に読んでから取り組みました。反戦のことを思いつつも、それぞれのメンバーにとっては楽しい活動の時間となったようです。
今回は、このようなすばらしい企画を、ありがとうございました。どうかよろしくお願いいたします。

●定期的に進捗状況を更新

全国的に呼びかけ、参加型アートプロジェクトと平和教育の試みである。進行状況を公開する。

当時のホームページでの報告：
このように進捗状況を随時アップしながら進んでいった

●***参加方法と期間延長について

①2000 年６月８日・開始から半年・・・
　半年がたち、予想に反しそんなに沢山打てないという状況だった。
「加害行為」を想定しての表現なだけに、ある程度を打つと手が止まってしまう。

②開始した半年前と変わった点として17 歳前後の年齢が起こす事件が連続して起きた。
　中には、「人を殺す経験をしてみたかった」等。「暴力の純度」が高まっているともいえるのでは。（キレる17歳、理由なき犯罪世代、酒鬼薔薇世代）

③進捗状況も中途半端な取り組みになっていた。しかし、正常な反応とも考えられた。
　何故なら加害行為を積極的に行うことは、この表現行為の趣旨に反することになる。

④その様に、矛盾を孕んだ行為なだけに、時間をかける必要性を感じ、
　開始から1 年後の2000 年10 月までとした。

●火葬式

約１年間行ってきた「鉄の記憶」を**火葬する事で20 世紀の暴力を永眠させることを目的とした。**自分自身の中にも潜む暴力性を葬り去るために参列者は、線香を手向け祈りを捧げた。

「鉄の記憶」火葬式のお知らせ

「鉄の記憶」

二十世紀の暴力「加害と被害」の本質を表現行為で考える目的で昨年十月より行なって参りましたここに　その「暴力」を永眠させると同時に　次世紀の平和学習の方法を模索し　行為中のご厚誼を深謝し謹んでお知らせ致します

尚　火葬式は左記の通り

一、日　時　十二月二日（土）午後　一時から一時半
一、場　所　南風原町字新川６４６番地開邦高校グランド
＊式順その後の日程地図参照

勝手乍らご供花の儀はご辞退申し上げます
火葬後の釘と灰は佐喜眞美術館にて
「加害の痕跡」として展示収蔵されます

企画　開邦高校芸術科有志
支援　佐喜眞美術館

式順

司会　芸術科生徒

一、開式の言葉
二、生徒を代表して
三、経過報告
四、黙とう
五、着火
六、閉式の言葉
その後燃え尽きるまで安全に気を配り続行（気象条件により柔軟に対応する）

葬儀への参加呼びかけの黒枠広告

鉄の記憶「火葬式」メッセージ（弔辞）

美術科代表２年　喜友名綾子

美術コース二年生だけではありますが、話し合い、みんなが“鉄の記憶”から感じたことをできる限り、私の言葉、またはみんなの言葉からそのまま抜粋し、箇条書きではありますが、述べさせていただきたいと思います。

釘を打ち込むことを言われた私たちと、釘を打ち込まれる木々。

釘を打つことへの疑問。

加害者への怒り。

ただ打ちたいと思ったこと、なんか楽しい。

打ち続けること。打ち続け、我を忘れること。

残虐への憧れと興奮。

楽しんでいる自分。

なぜか冷静な自分。

今まで潜んでいた冷酷な自分の発見。

木片が人間に見えてきたとき、よぎる罪悪感と明日にはそれを忘れる自分。

楽しんでいる自分。

なぜか冷静な自分。

今まで潜んでいた冷酷な自分の発見。

木片が人間に見えてきたとき、よぎる罪悪感と明日にはそれを忘れる自分。

被害者に共感できない自分。

痛み、嫌になるのに錆と血で汚れる手。暴力性、攻撃性、日常的、見失いそうな自分。

気が狂いそうなほど止まらない感情。

それでも思いとどまる理性。残酷でない自分を望むのは偽善か。

これが“鉄の記憶”で感じたものの一部です。

私たちはひとえに「戦争は悪いことなのでやめましょう。命とは尊いものです。」という答えを掲げるだけでいいのでしょうか。事実であるその答えを何度も繰り返し教えられてきましたが、私たちはそれをどれほど実感しているのでしょうか。きっと、それはあり得ないのだと思います。頭で理解することしかできないのです。これから先も本当に知っているのは被害者だけです。加害者の気持ちも同じです。私たちがどれほど人の命を奪う行為について考えたところで、加害者の気持ちになることはできないのです。それは“鉄の記憶”をおこなった後も同じです。私たちはみんなで結論を探しましたが、答えを出すことはできませんでした。自分たちが被害者になると同時に、加害者にもなりうることを知り、複雑

も繰り返し教えられてきましたが、私たちはそれをどれほど実感しているのでしょうか。きっと、それはあり得ないのだと思います。頭で理解することしかできないのです。これから先も本当に知っているのは被害者だけです。加害者の気持ちも同じです。私たちがどれほど人の命を奪う行為について考えたところで、加害者の気持ちになることはできないのです。それは“鉄の記憶”をおこなった後も同じです。私たちはみんなで結論を探しましたが、答えを出すことはできませんでした。自分たちが被害者になると同時に、加害者にもなりうることを知り、複雑な気持ちになりました。未だにうまく言葉に表せない気持ちが残っています。結局、私たちには分からなかったのです。それが話し合って出した私たちの結論であり、答えでもあると思います。そんな答えが出たことを、自然なことだと受け止めてもらえれば幸いです。しかし、決して“鉄の記憶”が何の意味も持たなかった訳ではありません。私たちはひたすら問題に向き合い考え続けました。それで最終的には誰も釘を打たなくなりました。釘が打てなくなったみんなのことを、私は単純に愛おしいと思いました。今からみんなの中に潜んでいた狂気を火葬します。みなさん、私たちの中の暴力的な心を笑顔で葬りましょう。今日は一つの区切りでしかありません。これからも私たちの中にある狂気は生まれ続けます。そしてこれからも私たちはそれに向き合い、考え続けていきましょう。

（弔辞）要約

釘を打ち込むことを言われた私たちと、釘を打ち込まれる木々。釘を打つことへの疑問。加害者への怒り。

ただ打ちたいと思ったこと、なんか楽しい。打ち続けること。打ち続け、我を忘れること。残虐への憧れと興奮。楽しんでいる自分。なぜか冷静な自分。今まで潜んでいた冷酷な自分の発見。

木片が人間に見えてきたとき、よぎる罪悪感と明日にはそれを忘れる自分。
被害者に共感できない自分。

私たちはみんなで結論を探しましたが、答えを出すことはできませんでした。
自分たちが被害者になると同時に、加害者にもなりうることを知り、複雑な気持ちになりました。

しかし、決して“鉄の記憶”が何の意味も持たなかった訳ではありません。私たちはひたすら問題に向き合い考え続けました。それで最終的には誰も釘を打たなくなりました。釘が打てなくなったみんなのことを、私は単純に愛おしいと思いました。

今からみんなの中に潜んでいた狂気を火葬します。みなさん、私たちの中の暴力的な心を笑顔で葬りましょう。これからも私たちの中にある狂気は生まれ続けます。そしてこれからも私たちはそれに向き合い、考え続けていきましょう。

（弔辞）要約

釘を打ち込むことを言われた私たちと、釘を打ち込まれる木々。釘を打つことへの疑問。加害者への怒り。

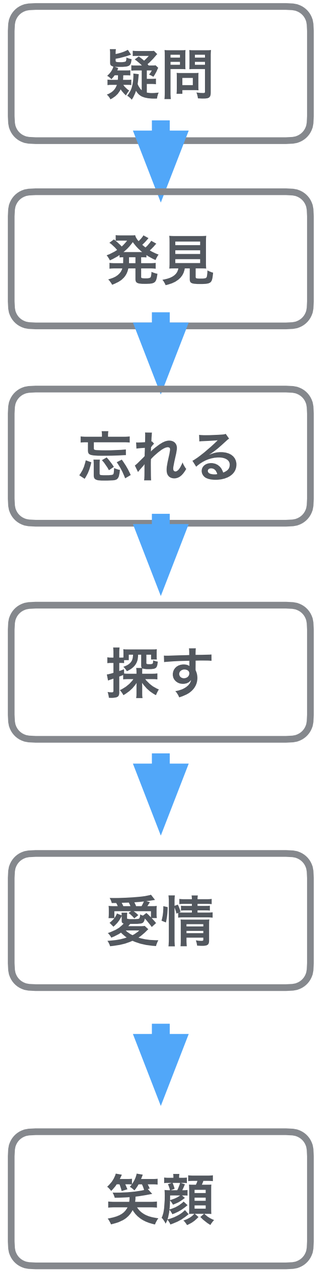
ただ打ちたいと思ったこと、なんか楽しい。打ち続けること。打ち続け、我を忘れること。残虐への憧れと興奮。楽しんでいる自分。なぜか冷静な自分。今まで潜んでいた冷酷な自分の発見。

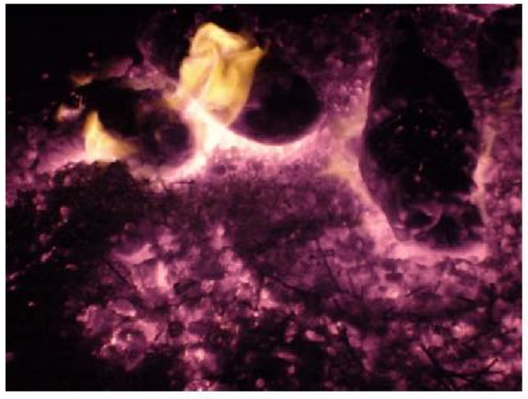
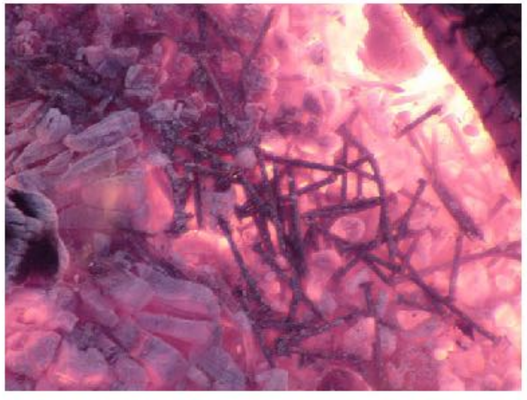
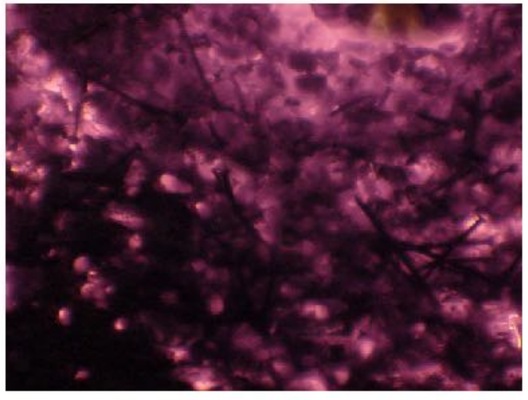
木片が人間に見えてきたとき、よぎる罪悪感と明日にはそれを忘れる自分。
被害者に共感できない自分。

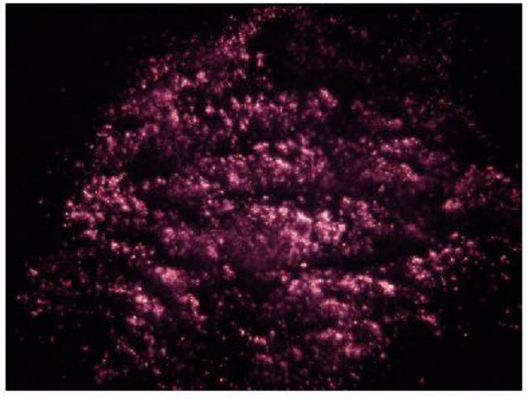
私たちはみんなで結論を探しましたが、答えを出すことはできませんでした。
自分たちが被害者になると同時に、加害者にもなりうることを知り、複雑な気持ちになりました。

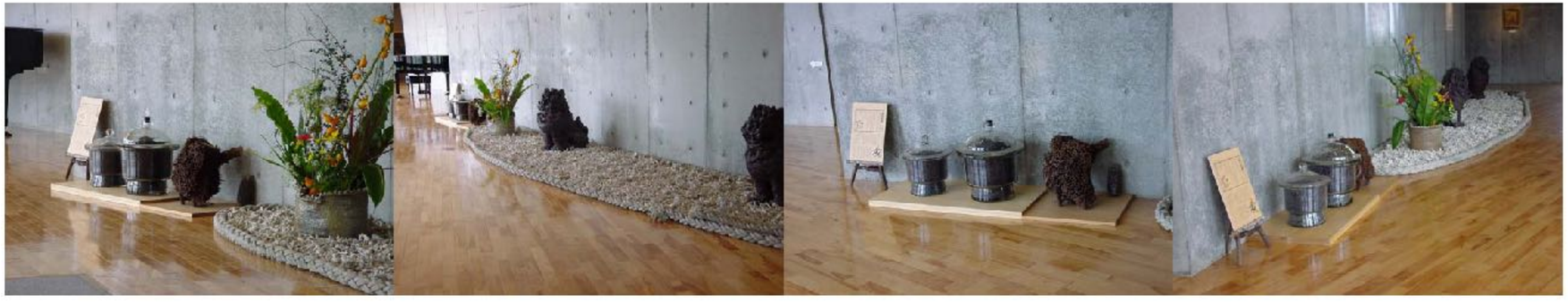
しかし、決して“鉄の記憶”が何の意味も持たなかった訳ではありません。私たちはひたすら問題に向き合い考え続けました。それで最終的には誰も釘を打たなくなりました。釘が打てなくなったみんなのことを、私は単純に愛おしいと思いました。

今からみんなの中に潜んでいた狂気を火葬します。みなさん、私たちの中の暴力的な心を笑顔で葬りましょう。これからも私たちの中にある狂気は生まれ続けます。そしてこれからも私たちはそれに向き合い、考え続けていきましょう。







意見交換

・ここで、気軽に疑問や
気づいた点など出し合い
意見交換しましょう。

意見交換

- ここで、気軽に疑問や気づいた点など出し合い意見交換しましょう。

内容からの例：

・インターネットの利用で公開進行型
・全国的な参加型のプロジェクト
・平和教育としての可能性
・沖縄県の不発弾
・不発弾による事故、処理問題
・沖縄戦による被害
・なぜ被害ではなく加害がテーマ
・火葬式と弔辞

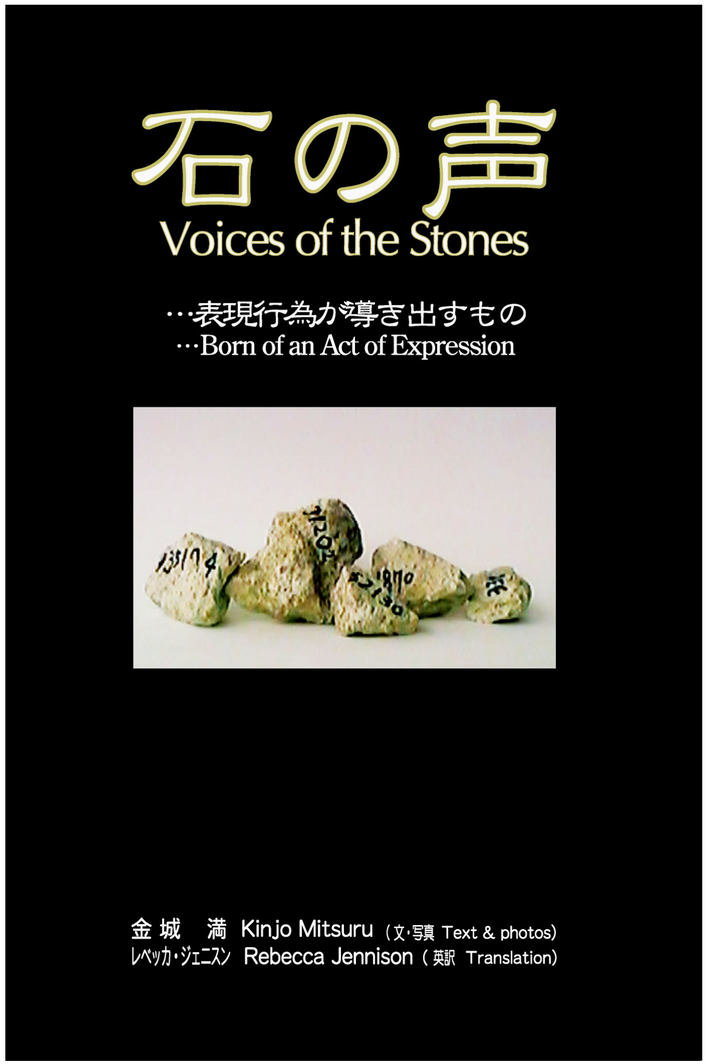
●2つのアートプロジェクトによる平和教育のまとめ

①はじめからテーマが明確で、全て見通せていたわけではない。参加者自らが早くその姿を見てみたいと思わせる仕掛けが重要である。その推進力がテーマを実態化させて場が変容し、現場で行うことの必然性が見えてくる。

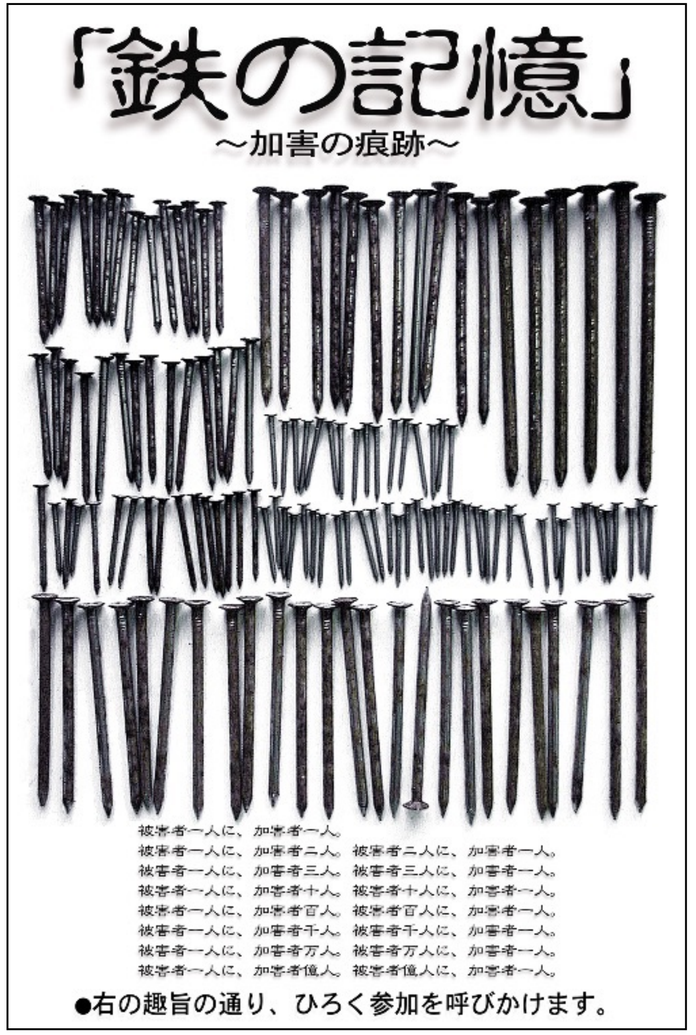
②平和教育の「新しいかたち」と評されたが、着想はもっと芸術行為そのものに重きをおいていた。なるべく「単純で膨大な繰り返しの作業」を通して自分そのものと向き合うことだった。

③作業が単純であればあるほど人はそのリズムの中に入り込み寡黙になり、自分と向き合い対話する。

以上、2つの取組みのアートプロジェクトによる平和教育についてでした。



（1996年）



（1999~2000年）

キーワード

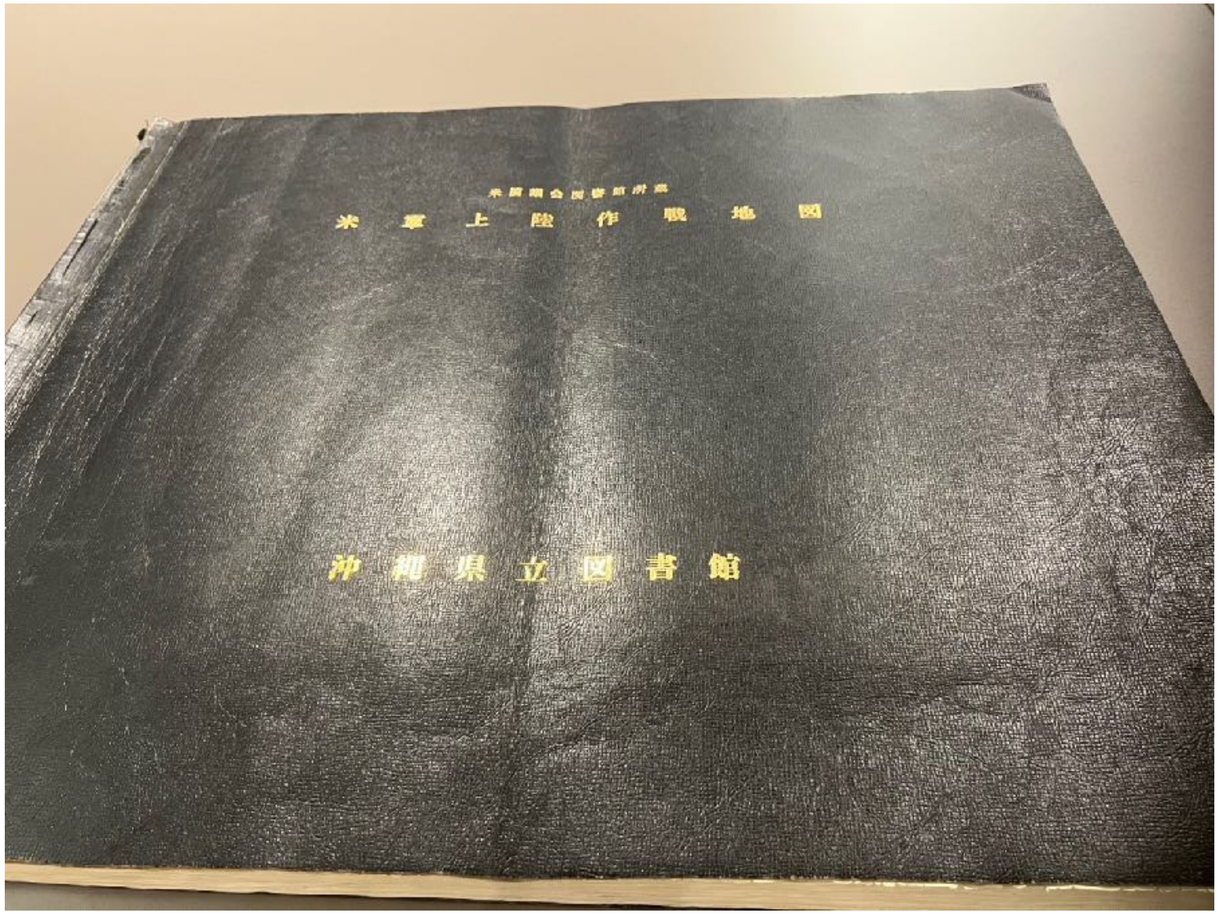
石と鉄

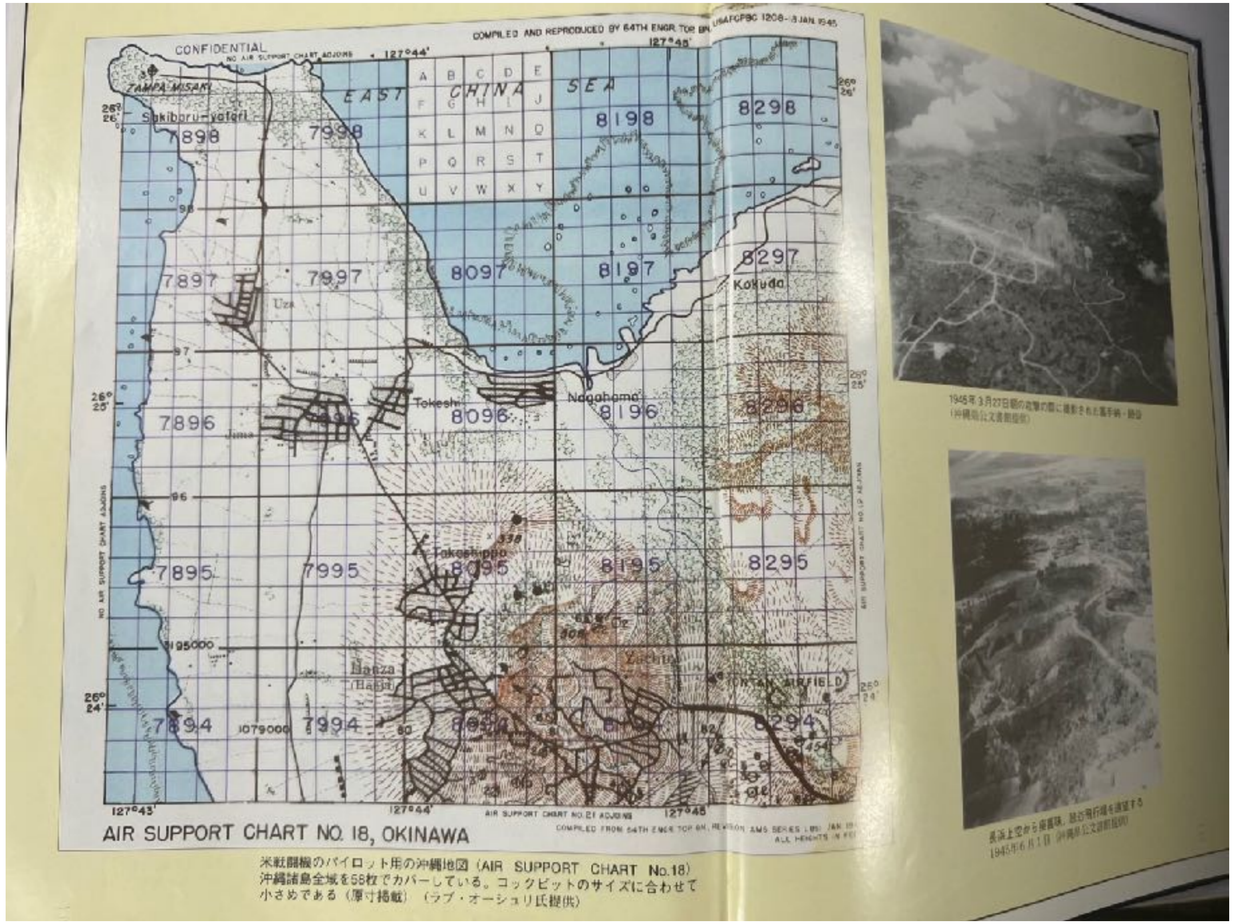
被害　加害

•自身の表現活動からの視点「鉄の座標」シリーズ

（県立図書館での沖縄戦マップに着想）

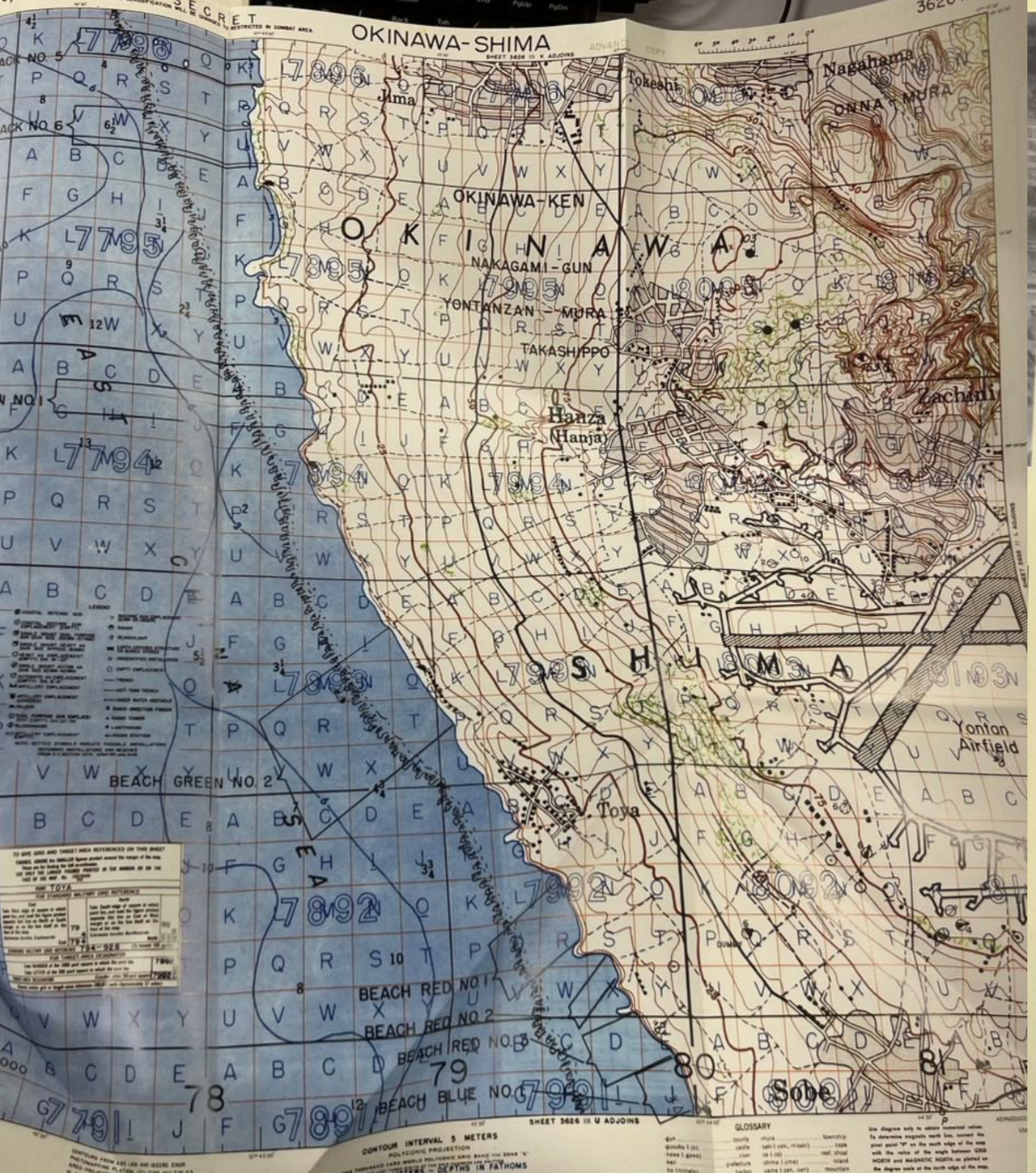
•自身の表現活動からの視点「鉄の座標」シリーズ
（県立図書館での沖縄戦マップに着想）

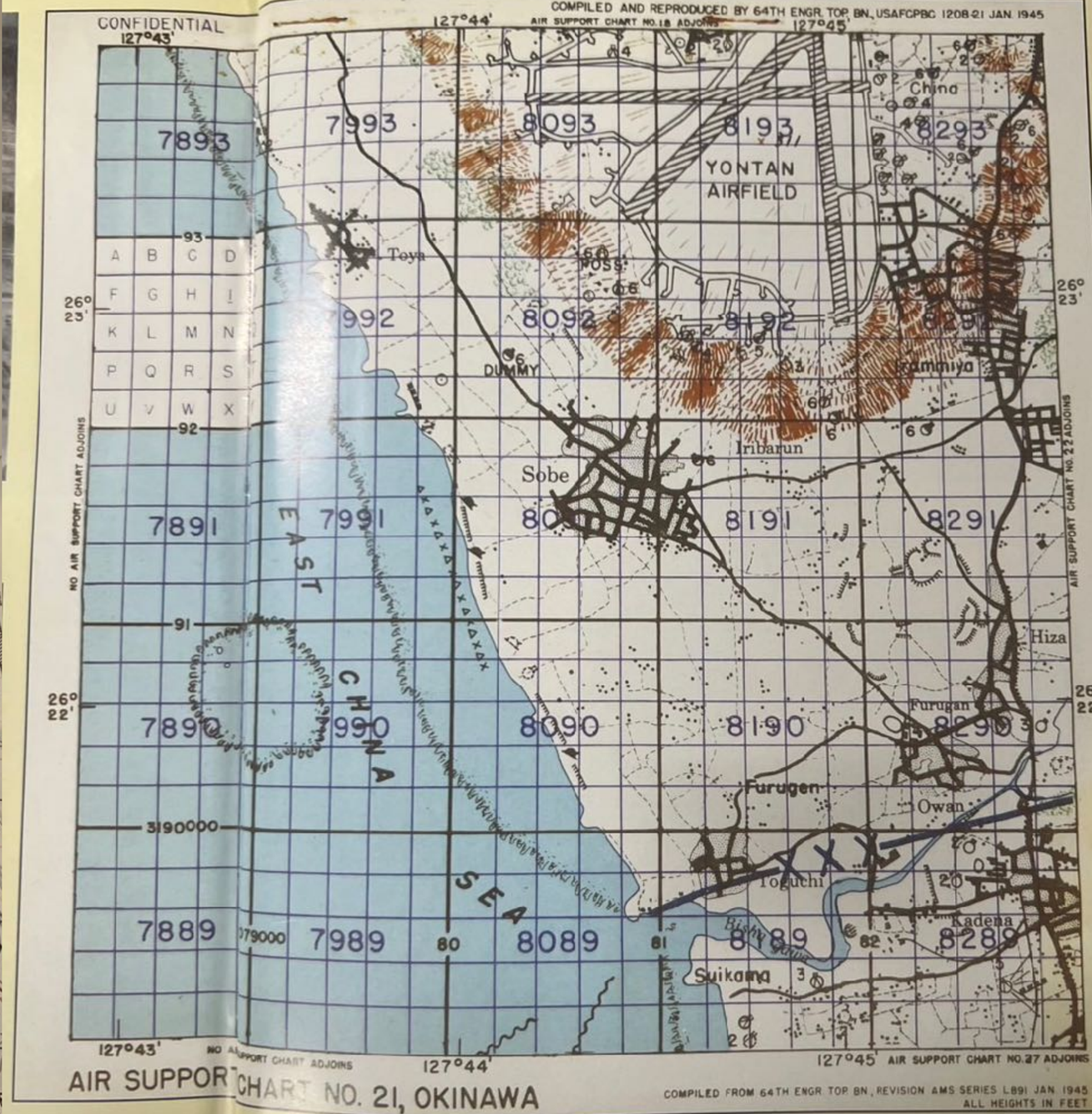




米駐留機のパイロット用の沖縄地図（AIR SUPPORT CHART No.18）
沖縄諸島全域を58枚でカバーしている。コックピットのサイズに合わせて
小さめである（厚寸掲載）（ラブ・オーシュリ氏提供）

出典：沖縄県立図書館





米陸軍航空隊のパイロット用の沖縄地図（AIR SUPPORT CHART No.21）
[illegible]を中心としたものである。（ラブ・オーシュリ氏提供）

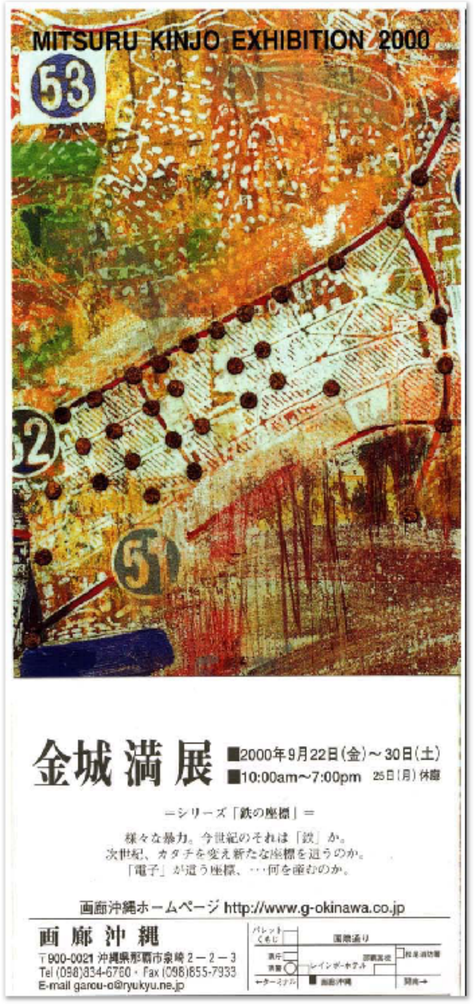
私自身の振り返りとして、シリーズ「鉄の座標」を制作

＝　シリーズ「鉄の座標」　＝

様々な暴力、今世紀のそれは「鉄」か
次世紀、カタチを変え新たな座標を這うのか。
「電子」が這う座標、・・・何を産むのか。

2000/09/22〜30 第14回個展・画廊沖縄

●シリーズ「鉄の座標」

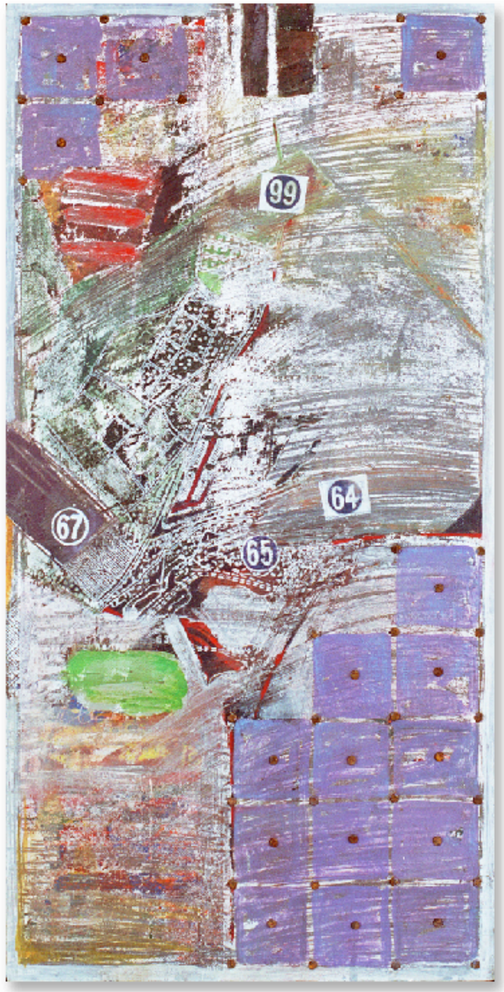

MITSURU KINJO EXHIBITION 2000
53
52
51
金城満展
■2000年9月22日(金)～30日(土)
■10:00am～7:00pm 25日(月)休廊
=シリーズ「鉄の座標」=
様々な暴力。今世紀のそれは「鉄」か。
次世紀、カタチを変え新たな座標を辿うのか。
「電子」が辿う座標、…何を画かのか。
画廊沖縄ホームページ http://www.g-okinawa.co.jp
画廊沖縄
〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎2－2－3
Tel (098)834-6760・Fax (098)855-7933
E-mail garou-o@ryukyu.ne.jp
国際通り
開南→

5
7
22
80
36
17
98

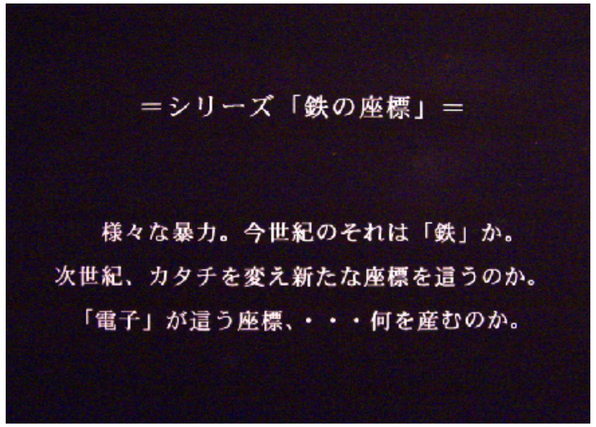
3
87
69
2

23
11
45
14
13
12

●シリーズ「鉄の座標」



●私自身の振り返りとして シリーズ「鉄の座標」を制作



- 「鉄の記憶」

- 「迷い鯉」

- 「石の声」

- 「壁画制作」

「アートの力は何かを変えられるのか」をテーマに、沖縄県立開邦高校勤務時（1995～2005年）に行ったアートプロジェクトで、壁画制作は沖縄県立中部病院、「石の声」「迷い鯉」「鉄の記憶」は佐喜眞美術館とのコラボレーションです。

Prev Page

Next Page

詳細は、「金城満の仕事」で検索

https://www.advertimes.com/20210803/article359547/

コラム

好奇心とクリエイティビティを引き出す「伝説の授業」採集

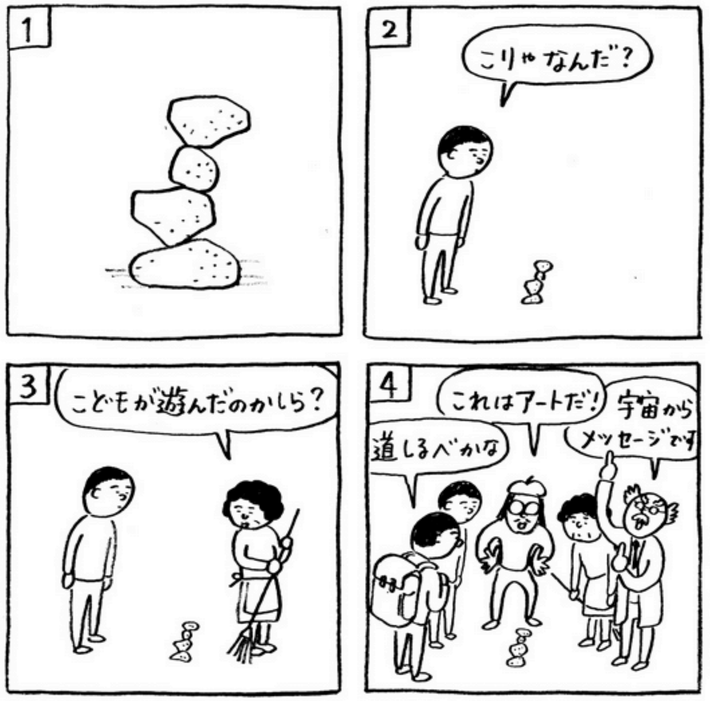
18時間目：沖縄戦で亡くなった方と同じ数、23万6095個の石に番号を振って、積み上げる。

倉成英俊 （Creative Project Base 代表取締役/ アクティブラーニングこんなのどうだろう研究所所長）

いいね！ 259 ツイート B!ブックマーク

2021.08.03 掲載

share



広告提供: Google
Ad options
フィードバックを送信
広告表示設定

•最後に「世代を超えたメッセージ」について

日本は戦前、パラオのコロール島に南洋庁を置き、南洋群島統治の中心地として開発した。1937年にパラオに居住する日本人は**1万1391人で、このうち4割余を沖縄県人**が占めた。米軍は44年3月に空襲を開始し、民間人は空襲や飢餓などで命を落とした。

召集された沖縄県出身者の犠牲:
県内全体では3059人が召集され、664人が戦死したという記録がある。

八重山毎日新聞６月３日にて　（2018年と思われる）

石垣市

大底さん妹２人の刻銘実現

パラオで３歳と１歳で死亡

石垣市新栄町の大底次太郎さん（80）は、妹の八重さん（享年3）とかつ子さん（同1）の刻銘を申請した。

それぞれ移民でパラオに渡った石垣市新川出身の父親と福島県出身の母親との間に次太郎さん（1939年生）、初江さん（41年生）、八重さん（42年生）、かつ子さん（43年生）が誕生。

戦火が激しくなった45年2～3月ごろ、空襲警報が発令され、軍命で防空壕へ。食料が底をつき、八重さんとかつ子さんは栄養失調で亡くなった。

パラオの地図を示しながら当時の様子を話す大底次太郎さん＝5月31日、新栄町の大底さん宅

当時6歳だった次太郎さんは2人が「ひもじい、ひもじい」と言っていたことだけは覚えている。「生きるのに精いっぱいだった。思い出すのもつらい」と語る。

昨年11月にパラオであった戦没者慰霊祭に出席した際、平和の礎関係者に偶然会って妹2人の事を相談、申請を決意した。次太郎さんは「（国外の）パラオで亡くなったため、刻銘できるのか不安があった。（刻銘）できないでいたことは心の大きな負担だった。長男としての責任を果たすことができ、関係者の方には感謝の気持ちでいっぱい」と刻銘実現を喜んだ。

昨年１１月に、お手伝いさせていただいた

第３６回パラオ現地慰霊墓参団にご参加された

大底様の想いを記事にて紹介いただきました。

国際旅行社うちなーんちゅの旅窓

（ホームページ記事）

日本は戦前、パラオのコロール島に南洋庁を置き、南洋群島統治の中心地として開発した。1937年にパラオに居住する日本人は**1万1391人で、このうち4割余を沖縄県人**が占めた。米軍は44年3月に空襲を開始し、民間人は空襲や飢餓などで命を落とした。

召集された沖縄県出身者の犠牲:
県内全体では3059人が召集され、664人が戦死したという記録がある。

「鉄」は
命を奪う

「鉄」は
命を奪う

「鉄」は
命を救う

～戦後80年平和を考える～
令和7年度
第1回 学校図書館支援研修会

令和７年 ６月13日（金）14：30～16：45